

第五十四回 病気と顎関節症との関係

頭蓋骨の中心に位置する蝶型骨は眼と耳たぶの上部を結んだ中間の位置の線上に頭蓋骨の側面に少しくぼんだところが蝶型骨です。外から触れますと小さい骨の様に感じますが、この骨は左右一対で頭蓋骨の底から見ると中心あたりを左右横に1/3から1/4の大きさの幅をしめています。そして上顎骨はもちろん頭蓋骨のほとんどの骨と接しているものです。

この蝶型骨の翼状突起は前回のコラムで述べた様に左右が別々に下向きに伸び、この突起の先端が口の中から触れる事が出来ます。

上顎の左右の1番奥のさらに奥にぼつんとした突起に触れる事が出来ます。

これを触れる時、自分でやるには人差し指でやるのではなく、左右の親指で同時に奥へ入れて下さい。感じる場所があります。

病人、体調不良を訴えている人、食べ物を片側咬みする人、ゴルフ、テニス等の片側だけよく使うスポーツをする人、自分の体に合わない薬を服用している人は必ず左右の翼状突起が上下にズレだけでなく、さらに前後のズレをおこしているものです。

つまり左右の頭蓋骨が上下にズレ、又左右が前後に捻じれをおこす為に首の骨、背骨、骨盤、足先迄バランスをとろうとして各関節に異常をおこし血流も悪く疲れやすくなるものです。当然顎関節に異常をおこすものです。マウスピースで治そうとするのは余りにも浅はかな考えです。

治らない、治らない、と言うのはあたり前のことです。

ここで蝶型骨だけを例にとってみますと、1つの背骨の骨には左右横に飛び出した突起が横突起です。この背骨の骨が回轉變位、つまりネジレをおこしますと横突起が前方にズレている側に同側の歯の咬み合わせが背骨の骨と関係している歯が低いことを意味します。

反対側の後方にズレている側の歯は前方にズレをおこしている歯の対照的な位置の歯が咬み合わせが高いという事ですが、左右の乳様突起の上下ズレのうち下がっている側の翼状突起を反対側と同じ高さに上に上げますと高さは同じになったものの、反対側の翼状突起はズルズルと後ろへ下がっていくものです。

この時、首の骨、背骨の回轉變位のネジレをおこしていた骨は必ず一瞬に逆方向に回轉變位のネジレをおこすものです。頭蓋骨の左右が同じ高さにもって来ますと以前の歯の咬み合わせが違って来る事になり、背骨と関係ある歯を高くするか、又は低くするかは体全体の反応をみて歯を調整するもえす。歯を見て調節するものではありません。

ここで天秤を想像してもらえばよいです。

右側が下がって、左側が上がっているならばバランスをとる為に右側を上へ上げるか左側を下へ押すのかの様に、歯では高くするか、歯を削って低くするかどちらかです。

それを決めるには背骨の回轉變位、又前方変位のズレ及び頭蓋骨始め足等に反応が出ているも

のです。

歯の調節が終わると左右の乳様突起は上下・前後のズレは無くなっているものです。又、背骨・首の骨の回転変位ではなく、前方・後方のズレもその時は一瞬に正常に戻るものです。

背骨・首の骨が前方にズレをおこしていますと、その骨とつながっている広範囲の筋肉が引張られて全体にかけて凝るとか又あお向けで寝ると腰が痛いとかだけでなく内臓にも異常をおこすものです。

ここで背骨と病気の関係を申しますと、背骨の1番上は心臓の冠状動脈、2番目は心筋、3番目は肺の気管支。4番目は胆のう、5番目は胃、6番目は膵臓、7番目は脾臓、8番目は肝臓、9番目は副胃、10番目は腸、11番・12番は腎臓、13番目は回盲部、14番目は腺(甲状腺、乳腺、扁桃腺、唾液腺)15番目は結腸、16番目は前立腺・子宮。

病気をおこしていますとこれらの関係する背骨のズレを必ずおこしているだけでなく、顔、手足に関係する部分に反応が出ているものです。

腐った食べ物、自分の体に合わない薬、健康食品等を手で持つだけでこの蝶形骨の翼状突起が一瞬に上下・前後にズレをおこし、スグに離すと一瞬に又元に戻るものです。

但し、頭蓋硬膜の緊張をとった状態の時です。頭蓋硬膜の緊張のある人は無反応です。

癌の人も同じです。癌除去した後は抗癌剤、ホルモン剤を服用しなければならないでしょう。だけでも慢性状態になるとその薬が自分の体に会っているならばよいが、合っていなければ血流が悪くなる為、自然治癒力が低下し、治らないか、命を落とす結果になるものです。

余命数ヶ月と医者に言い渡された人で癌剤等をゴミ箱等に捨てた人は20年以上もまだ生きているものです。医者の言いなりになると殺されるといううわさもあるものです。

どの病気も同じです。慢性の状態になったならば毎日その薬は自分の体に合っているかチェックすることです。

リウマチ、うつ病も同じです。冷え病です。薬で血流が悪く体を冷やすことになるものです。

但し歯のインプラントを入れた人は運が悪かったと諦める事が必要です。インプラントと骨との間にクッション作用が無い為に頭蓋硬膜の緊張を起こす為に。神経伝達系統が悪く、血流障害をおこし、病的な状態に徐々になるものです。

歯の矯正治療した人は個人差がありますが数ヶ月から数年治療にかかるものです。

又自然界との関係があります。

地球は太陽の周りを左回りするものです。人も運動場を走るのも左回りです。海の回遊魚も左回りです。体も右より左側が悪くなったら、中々治らないとか一生治らないと言われるものです。

奇形は除きますが、難聴も左が多く、左肩の凝り、心臓、膵臓である糖尿病、左の坐骨神経痛等、左側が治りが悪いものです。歯の治療すると左側が低くなりやすいものです。右はその逆です。

その為に、顔面神経麻痺、三叉神経痛の人はほとんど左右の奥歯に冠等をかぶせてあるものです。顔面の左側の骨が特に圧迫されるのではないかと思います。

蝶形骨の翼状突起を左右、前後、正しい位置にもってくれば血流は必ずよくなるものです。但し奇形は除きます。

心臓病、糖尿病、左側の坐骨神経痛もそれなりに回復するものです。